

地球環境時代における教育小委員会 第3回議事録(案)

日時：平成18年 10月 30日(月) 14:25～16:35

5

場所：日本建築学会 306会議室

出席者：吉野博(東北大学)、菅原正則(宮城教育大学)、宿谷昌則(武蔵工業大学)、
妹尾理子(住宅総合研究財団)、光田恵(大同工業大学)、吉野泰子(日本大学)、
石井洋平(技報堂出版)
：7名

10

- 資料：3-0 地球環境時代における教育小委員会 第3回 議事次第
3-1 地球環境時代における教育小委員会 第2回 議事録(案) / 菅原委員
15 3-2 - 児童の住環境意識形成に及ぼす気候風土の影響と住環境教育 / 吉野(泰)委員
3-2 - 世田谷区平成18年度企画展「古民家と養蚕」の案内 / 吉野(泰)委員
3-3 住環境教育特別研究委員会名簿および執筆者一覧(環境教育用教材「学校のなかの地球」)
/ 石井氏
3-4 実施計画書(シンポジウム「学校のなかの地球」) / 菅原委員
20 3-5 建築雑誌11月号会告 p.101 校正原稿(シンポジウム「学校のなかの地球」) / 学会事務局
3-6 目次(環境教育用教材「学校のなかの地球」) / 石井氏
3-7 小委員会設置継続願 / 吉野(博)主査
3-8 ぼくらは二酸化炭素をどれくらい出しているか
学校や家庭のエネルギー使用量と二酸化炭素排出量 (三浦委員の原稿) / 石井氏
25 3-9 付録 実践教材の表紙ページ校正原稿(環境教育用教材「学校のなかの地球」) / 石井氏

議事：

1. 議事録確認

前回議事録案(資料3-1)は次の修正を行い、承認された。

30

- ・表ページ43行目「出版時期は10を」「出版時期は10月を」
- ・裏ページ30行目「(後日、会場の)」「(後日、会場の都合により1月18日となった)」
(なお、後日録音を確認して、裏ページ30行目「17:00～20:00」「17:00～19:30」だったことが
分かりました。)

35

2. 刊行について

吉野(博)主査から標記について説明があり、次のことが確認された。

40

- ・印刷直前の手続きとして、原稿の校正はまず各執筆者で行ってもらい、その後、吉野(博)主査が最終確認することになった。(会議終了後、委員全員で最終確認するよう方針が変わったので、最終原稿は委員全員に郵送される)
- ・出版はできるだけ早い時期が望ましい。
- ・名簿(資料3-3)には、現行小委員会の委員名簿も併せて掲載する。なお、妹尾委員の所属について「都留文化大学」「都留文科大学」と修正。
- ・執筆者名は個人名を掲載する。
- ・目次(資料3-6)のページ数について、2.3 高校生以上を対象とした事例は「82」「88」に修正。

45

石井氏から新たな原稿(資料3-8、3-9)について説明があり、確認された。三浦委員の原稿(資料3-8)について、修正箇所がいくつか指摘された。

50

- ・71ページ3行目「比べてみるのと」は「比べてみるのも」?
- ・同ページ下から4行目「メーターあり」は「メーターがあり」?
- ・72ページ「4 ポイント」は「3 ポイント」?

3. シンポジウムについて

吉野（博）主査から標記（資料3 - 4）について説明があり、次のようにプログラム（全2時間 30分）が確認された。

司会：吉野（博）主査、菅原委員

1. 趣旨説明：吉野（博）主査

5分

2. 住環境教育への期待

10分×2

・住環境教育はなぜ必要か：宿谷委員

・学校における住環境教育の可能性：妹尾委員

3. 住環境教育実践事例（どれか1つについて実演する）

20分×3

・模型と実寸大モデルを用いた涼房の体験学習：高橋委員

・「照度しらべ」と「つくろう！ 光環境」：西川委員

・温度や風を測ってみよう 親子による環境体感ワークショップの試み：田中委員

（休憩 10分）

4. パネルディスカッション

55分（はじめにコメント5分×5）

・コーディネーター：吉野（博）主査

・パネラー：小澤委員、宿谷委員、石川直彦先生（緑のカーテン）、廣谷純子氏（学校エコ改修）ほか（文科省または理科教育の関係者でどなたか1名）

石川先生、廣谷氏については、宿谷委員から出演依頼する。文科省または理科教育の関係者については、小澤委員から候補者を探して頂く。

後援依頼は、日本環境教育学会、日本エネルギー環境教育学会、子ども環境学会に向けて行う。

学校教育現場の先生方への広報は、一昨年アンケートを実施した学校、「学校のなかの地球」のデータベースに掲載されている団体、環境持続住宅研究会、学校エコ改修事業に参加している学校などに向けてダイレクトメールで行う（学会事務局に相談）。

シンポジウム参加者には、「学校のなかの地球」を無料贈呈する。案内には明記する。

参加費用は会員 500 円、会員外 1000 円。

4. 今後の委員会の方向性について

吉野（博）主査から標記について、小委員会設置継続願（資料3 - 7）を提出した旨、報告された。地球環境本委員会の次期委員長は吉野博先生に決まったとのこと。

次期委員について、現在の委員のうち、今期一度も委員会への出席の無かった木下委員と、辞退の意思表示があった土川委員を除く 13 名について継続し、2 名の公募を行うことになった。

次期委員会の主査は吉野（博）主査が継続し、幹事は菅原委員と高橋委員が務めることになった。

5. 児童の住環境意識形成に及ぼす気候風土の影響と住環境教育

吉野（泰）委員から標記（資料3 - 2）について説明があった。これに関して、次のような意見交換があった。

（宿谷）統計的手法を駆使するよりも、集計結果から素直に言えることを結論として導いて行った方が良いと思う。

以前、夏に段ボールハウスで涼しい空間を作るワークショップを小学生数名に対して行った。そしてその半年後くらいの冬の時に、「涼しい家はどういうものか」についてその参加者を含むクラスメート全員に書いてもらった。その際ワークショップの話の話をいっさい思い出さないようさりげなく実施してもらったが、参加者とそれ以外とは回答に明らかな差が見られた。サンプル数は少なくてもこのように教育活動とその効果の対応関係を丁寧に追って行かれてはどうか。

6. 次回開催日

次回委員会は、2月6日（火）15:00～17:00に日本建築学会会議室で行う。

シンポジウム当日（1月18日（木））関係者は15:00から日本建築学会会議室で事前打ち合わせを行う。

以上